

高知県感染症発生動向調査（週報）

2015年 第31週 （7月27日～8月2日）

★お知らせ

○いわゆる夏風邪（ヘルパンギーナ、手足口病、咽頭結膜熱 など）に注意しましょう！

これらの疾患は夏に流行する代表的な疾患です。

・ヘルパンギーナに気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第30週の2.60から第31週では5.07と増加しています。高知県全域で増加し、中央西、高知市、須崎では警報値を超えています。安芸、中央東、幡多では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。

突然の発熱と口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とし、夏期に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性咽頭炎です。まれには無菌性髄膜炎、急性心筋炎などを合併することがあります。いわゆる夏かぜの代表疾患で、その大多数はエンテロウイルス属、流行性のものは特にコクサッキーウイルスA2、3、4、5、6、10型などにより起こります。

病原体検出情報では、ヘルパンギーナの原因となるCoxsackievirus A10が検出されています。

感染は、飛沫、経口及び接触感染です。感染者との密接な接触を避け、うがい手洗いを励行しましょう。

・手足口病に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第30週の3.20から第31週は4.57と増加しています。高知市以外で増加し、安芸、須崎では警報値を超えています。また、高知市、中央東では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。

病原体検出情報では、手足口病の原因となるCoxsackievirus A16が検出されています。

手足口病は合併症として、心筋炎や髄膜炎を起こすことがあります。これから注意が必要な時期になりますので、食事前やトイレ後の手洗いなど、感染予防対策を心がけてください。

この病気は、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患であり、2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。

学童以上の年齢層の大半はすでにこれらのウイルスの感染（不顕性感染も含む）を受けている場合が多いので、成人の発症はあまり見られません。

通常は3～5日の潜伏期において、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができ、時に肘、膝、臀部などにも出現します。

ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。

感染は、飛沫、経口及び接触感染です。感染者との密接な接触を避け、うがい手洗いを励行しましょう。

・咽頭結膜熱（プール熱）に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第30週の0.07から第31週は0.37と急増しています。中央西、高知市、中央東、幡多で増加しています。

咽頭結膜熱はアデノウイルス（主に3型）によるウイルス性の感染症で、発熱・咽頭炎・結膜炎が主な症状で、3～5日間程度持続します。潜伏期は、5～7日とされています。プールでの接触やタオルの共用により感染することもあるので、「プール熱」と呼ばれることもあります。通常、6月頃から徐々に流行しはじめ、7～8月にピークとなります。

特異的治療法はないため、対症療法が中心となります。眼症状が強い場合には眼科的治療が必要になることもあります。感染経路は主に飛沫感染、接触感染ですが、その感染力は強力であり、タオル、ドアの把手、エレベーターのボタン、階段の手すり等の患者が触れたものを触ることによっても感染する場合があります。予防としては、感染者との密接な接触を避けること、流行時にうがいや手指の消毒を励行することです。また、衛生を保つため、プールから上がったときは、シャワーを浴び、うがいをしましょう。

感染症予防の基本は、

★★★手洗いから★★★

調理時や食事前、トイレの後は石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。

アタマジラミに注意して！

アタマジラミが多数報告されています。

アタマジラミは大きさが1～3ミリで、髪の中に住み、人間の血を吸います。

衛生状態とは無関係に発生し小学生以下の子どもに多くみられます。こどもさん達が頭をとともかゆがっていたら、そっと調べてあげてください。

※ご相談は最寄りの保健所へ

アタマジラミ対策パンフレット等

(東京都健康安全部 環境保健衛生課 指導係ホームページ)

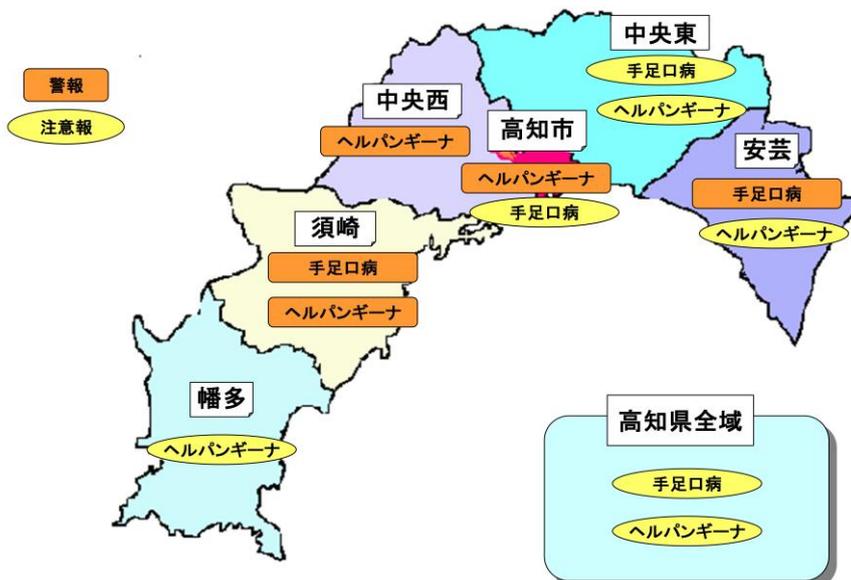
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kankyo/eisei/yomimono/nezukon/atamajirami/atamajirami.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
31週（7月27日～8月2日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
ヘルパンギーナ	↗	5.07	高知県全域で増加し、中央西、高知市、須崎では警報値を超えています。安芸、中央東、幡多では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。
手足口病	↗	4.57	高知市以外で増加し、安芸、須崎では警報値を超えています。高知市、中央東では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↗	2.60	中央東、高知市、幡多で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	0.93	中央西で増加しています。
突発性発疹	→	0.43	高知市、安芸で増加しています。

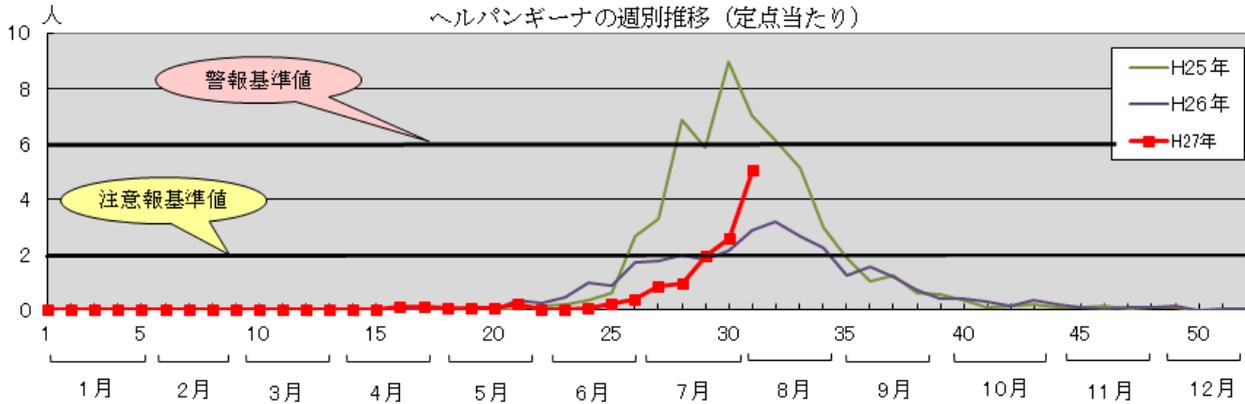
★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

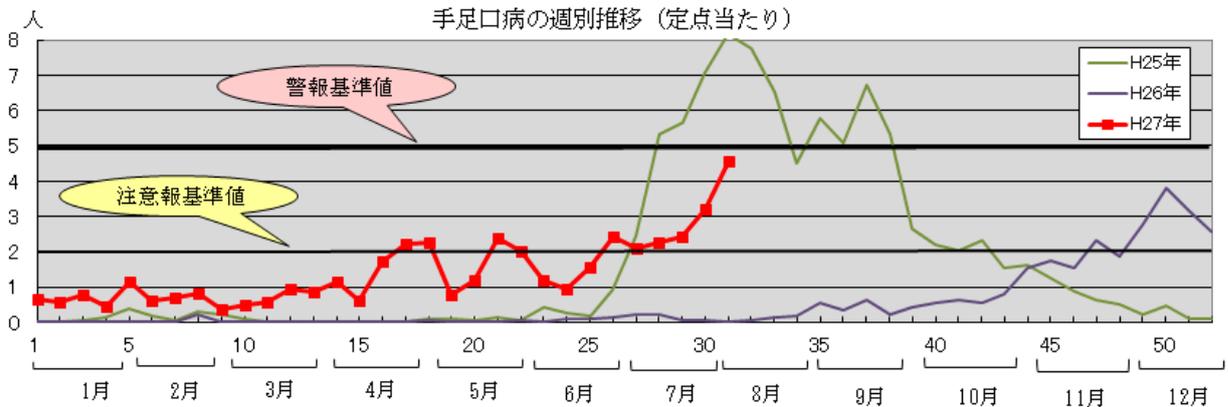
○ヘルパンギーナ：5.07（注意報値：2.00 警報値：6.0）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 5.07（前週：2.60）と増加しています。地域別にみると中央西 7.67（前週：2.00）、高知市 6.82（前週：4.27）、須崎 6.50（前週：1.00）、安芸 4.00（前週：3.50）、中央東 3.00（前週：1.57）、幡多 2.40（前週：1.00）で増加しています。中央西、高知市、須崎で警報値を超えています。安芸、中央東、幡多では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。



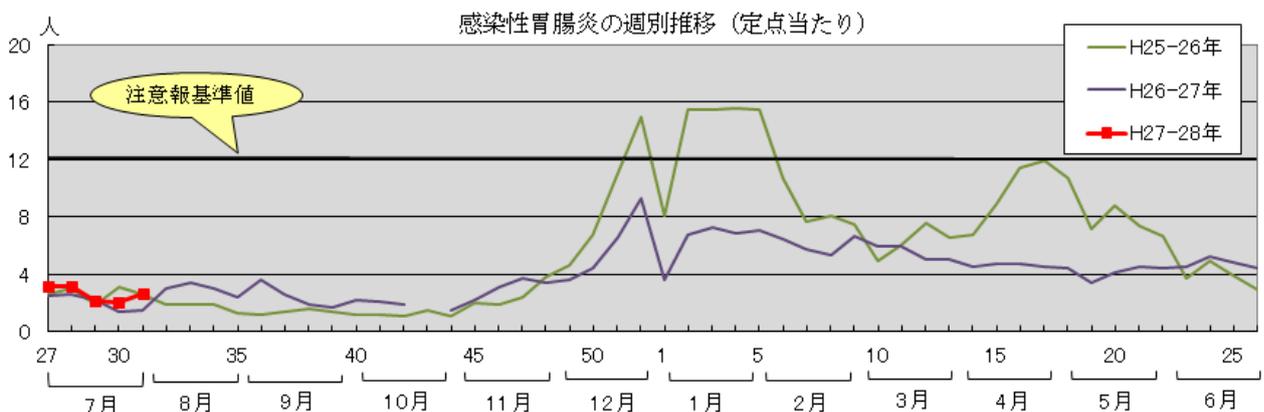
○手足口病：4.57（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.57（前週 3.20）と増加しています。地域別にみると安芸 19.00（前週：2.50）、須崎 11.50（前週：9.50）、中央東 3.14（前週：2.14）、幡多 1.40（前週：0.80）、中央西 1.33（前週：1.00）、で増加しています。安芸、須崎では警報値を超えています。高知市、中央東では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎：2.60（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.60（前週：2.07）と増加しています。地域別にみると、中央東 4.14（前週：1.71）、高知市 3.09（前週：2.82）、幡多 1.60（前週：0.80）で増加しています。



★病原体検出情報

受付週	検出週	臨床診断名	年齢	性別	患者市町村	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
31	31	急性気管支炎	10ヶ月	男	香美市	高知市	Human metapneumovirus
							Parainfluenza virus 3
31	31	不明熱	1	男	南国市	中央東	Parainfluenza virus 3
							Respiratory syncytial virus A

前週以前に搬入

受付週	検出週	臨床診断名	年齢	性別	患者市町村	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
28	31	手足口病	3	男	四万十町	須崎	Human herpes virus 6
28	31	手足口病	3	男	四万十町	須崎	Human herpes virus 7
29	31	不明熱	7ヶ月	女	中土佐町	須崎	Cytomegalovirus
							Echovirus 25
29	31	ウイルス性発疹症	6ヶ月	男	四万十市	幡多	Cytomegalovirus
30	31	感染性胃腸炎	7ヶ月	男	黒潮町	幡多	Adenovirus 1
		川崎病疑い					
30	31	不明熱	10ヶ月	女	四万十町	須崎	Adenovirus 2
30	31	感染性胃腸炎	9ヶ月	男	高知市	高知市	Coxsackievirus A10
		ヘルパンギーナ					
30	31	手足口病	10ヶ月	男	須崎市	須崎	Coxsackievirus A16
30	31	手足口病	3	男	四万十町	須崎	Coxsackievirus A16
30	31	ウイルス性発疹症	5ヶ月	女	高知市	高知市	Echovirus 18
30	31	不明発疹症	1	女	中土佐町	須崎	Echovirus 18
30	31	不明発疹症	4	男	四万十町	須崎	Echovirus 18
30	31	感染性胃腸炎	1	男	須崎市	須崎	Echovirus 25

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	87	80歳代(女)	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
安芸	田野病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1例 (5歳女)
中央東	野市中央病院小児科	サルモネラ腸炎 (0-9群) 1例 (8歳女)
	高知医大医学部附属病院小児科	手足口病 無菌性髄膜炎合併 1例 (1ヶ月男)
高知市	高知医療センター小児科	カンピロバクター 1例 (6歳男)
		病原性大腸菌 2例 (0ヶ月男、14歳男)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 1例 (1歳女)
		マイコプラズマ肺炎 1例 (10歳男)
		カンピロバクター腸炎 1例 (8歳女)
		病原性大腸菌 0-25 腸炎 1例 (6歳男)
細木病院小児科	カンピロバクター+病原性大腸菌 0-25 腸炎 1例 (12歳男)	
中央西	石黒小児科	伝染性紅斑 1例 (8歳女:さいたま市より帰省中)
		帯状疱疹 1例 (9歳女)
	くぼたこどもクリニック	ヘルパンギーナ 2例 (5歳9歳姉妹: 県外から帰省)
		手足口病 1例 (2歳女: 高知市)
須崎	もりはた小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (1歳男)
幡多	さたけ小児科	カンピロバクター腸炎 1例 (2歳女)
		ヘルペス歯肉口内炎 3例 (1歳男、2歳男、3歳女)
	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1例 (4歳女)

★全国情報

第29週（7/13～7/19）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核348例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症123例

4類感染症：E型肝炎2例、重症熱性血小板減少症候群2例、デング熱4例、日本紅斑熱8例、レジオネラ症54例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症23例、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、後天性免疫不全症候群11例、ジアルジア症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、侵襲性肺炎球菌感染症15例、水痘（入院例に限る）7例、梅毒32例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん1例、麻しん1例

報告遅れ：日本紅斑熱2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症14例、急性脳炎3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、水痘（入院例に限る）3例、播種性クリプトコックス症1例

◆腸管出血性大腸菌感染症（2015年7月22日現在）

2015年の腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症報告数は、第21週から増加し始め、第25週に100例を超えた。第26～27週にかけて起きた集団発生の影響で、一時的に増加がみられた。本年第29週までの累積報告数1,451例は、直近4年間（2011～2014年）の各年同週までの累積報告数と比較して、2011年に次いで2番目に多い報告数である（2011年1,616例、2012年1,264例、2013年1,232例、2014年1,411例）。また、患者（有症状者）のみに絞った累積報告数は981例であり、2011年に次いで2番目に多い（2011年1,083例、2012年794例、2013年847例、2014年977例）。

第1～29週の累積報告数を都道府県別にみると、大阪府（252例）が最も多く、次いで東京都（152例）、神奈川県（86例）、北海道と福岡県（各83例）の順であった。大阪府は、第26週に保育施設で起きた集団発生（O26 VT1）により、無症状病原体保有者を含めて100例以上が報告された。第27週以降に起きた集団発生（食中毒を含む）は、第28週に東京都の飲食店（食中毒、O157 VT2）、千葉県の中学校（O157 VT1・VT2）、第29週に三重県の飲食店（食中毒、O157 VT1・VT2）でそれぞれ報告されている。

EHEC感染症の重篤な合併症である溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は、第29週までに累計31例〔うち、女性19例（61.3%）〕が報告されており、患者全体に占める割合は3.2%であった。直近4年間の同週までの累積報告数と比較すると、2011年（61例）、2014年（39例）に次ぐ報告数であった。年齢群別では0～4歳が17例で過半数を占め、患者に占めるHUS発症例の割合は8.0%で、他の年齢群と比較して最も高かった。例年同様、女性と低年齢の小児で発症が多く報告されている。

届け出時点におけるEHEC感染症の死亡は2例（うち1例はHUS発症）が報告されていた。

EHECは少量の菌数（10～100個程度）でも感染が成立し、人から人への経路、または人から食材・食品への経路で感染が拡大しやすい。EHEC感染症が多発する夏季は、食肉の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などを行うことにより、食中毒の予防を徹底することが重要である。特に、低年齢の小児はEHEC感染とその後のHUS発症のリスクが高いため、肉・レバーなどは十分に加熱してから喫食することが必要である。肉やレバーの生食はEHECに汚染されている可能性が否定できないため控えることが必要である。焼く前の生肉などに使用する箸は使い分けることなどにも注意が肝要である。また、下痢や腹痛等の症状がある場合は、人から人への二次感染を予防するための注意も必要である。毎年保育施設における集団発生が多くみられており、日ごろからの注意として、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要である。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要がある。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒が必要である。

中東呼吸器症候群（MERS）について：厚生労働省HP

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/mers.html>

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第31週 平成27年7月27日(月)～平成27年8月2日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第31週					計	前週	全国(30週)	高知県(31週末累計)		全国(30週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/8/2	
インフルエンザ	インフルエンザ									381 (0.08)	15,328 (319.33)	1,145,718 (234.20)	
小児科	咽頭結核熱		2	6	2		1	11 (0.37)	2 (0.07)	1,442 (0.46)	113 (3.77)	42,563 (13.62)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	18	5		3	28 (0.93)	43 (1.43)	5,455 (1.73)	2,022 (67.40)	253,972 (81.30)	
	感染性胃腸炎	4	29	34	3		8	78 (2.60)	62 (2.07)	10,754 (3.42)	4,634 (154.47)	612,240 (195.98)	
	水痘		1	2			2	6 (0.20)	13 (0.43)	1,082 (0.34)	361 (12.03)	46,328 (14.83)	
	手足口病	38	22	43	4	23	7	137 (4.57)	96 (3.20)	29,504 (9.38)	1,344 (44.80)	184,495 (59.06)	
	伝染性紅斑		3	7	2			12 (0.40)	5 (0.17)	2,478 (0.79)	94 (3.13)	57,598 (18.44)	
	突発性発疹	1	3	8			1	13 (0.43)	14 (0.47)	1,746 (0.55)	419 (13.97)	48,916 (15.66)	
	百日咳							()	()	57 (0.02)	10 (0.33)	1,387 (0.44)	
	ヘルパンギーナ	8	21	75	23	13	12	152 (5.07)	78 (2.60)	8,866 (2.82)	390 (13.00)	50,715 (16.23)	
	流行性耳下腺炎	2	1	2			1	6 (0.20)	17 (0.57)	1,651 (0.52)	515 (17.17)	35,715 (11.43)	
	RSウイルス感染症			3				3 (0.10)	9 (0.30)	554 (0.18)	437 (14.57)	31,120 (9.96)	
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	7 (0.01)	()	269 (0.40)	
	流行性角結膜炎							()	2 (0.67)	577 (0.84)	10 (3.33)	10,924 (16.09)	
基幹	細菌性髄膜炎							()	2 (0.25)	15 (0.03)	7 (0.88)	238 (0.50)	
	無菌性髄膜炎							()	()	36 (0.08)	8 (1.00)	488 (1.03)	
	マイコプラズマ肺炎		1	2			3	6 (0.75)	4 (0.50)	154 (0.33)	134 (16.75)	3,473 (7.33)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.13)	1 (0.13)	5 (0.01)	30 (3.75)	197 (0.42)	
	感染性胃腸炎							()	()	10 (0.02)	67 (8.38)	3,936 (8.30)	
計(小児科定点当たり人数)	53 (26.50)	85 (12.00)	201 (18.01)	39 (13.01)	38 (19.00)	37 (6.80)	453 (14.87)		64,774	25,923 (663.97)	2,530,292		
前週(小児科定点当たり人数)	23 (11.50)	60 (8.28)	186 (16.46)	26 (8.66)	28 (14.00)	25 (4.60)		348 (11.31)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第31週					計	前週	全国(30週)	高知県(31週末累計)		全国(30週末累計)
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/8/2	
インフルエンザ	インフルエンザ									0.08	319.33	234.20	
小児科	咽頭結核熱		0.29	0.55	0.67		0.20	0.37	0.07	0.46	3.77	13.62	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.29	1.64	1.67		0.60	0.93	1.43	1.73	67.40	81.30	
	感染性胃腸炎	2.00	4.14	3.09	1.00		1.60	2.60	2.07	3.42	154.47	195.98	
	水痘		0.14	0.18			1.00	0.20	0.43	0.34	12.03	14.83	
	手足口病	19.00	3.14	3.91	1.33	11.50	1.40	4.57	3.20	9.38	44.80	59.06	
	伝染性紅斑		0.43	0.64	0.67			0.40	0.17	0.79	3.13	18.44	
	突発性発疹	0.50	0.43	0.73			0.20	0.43	0.47	0.55	13.97	15.66	
	百日咳									0.02	0.33	0.44	
	ヘルパンギーナ	4.00	3.00	6.82	7.67	6.50	2.40	5.07	2.60	2.82	13.00	16.23	
	流行性耳下腺炎	1.00	0.14	0.18			0.20	0.20	0.57	0.52	17.17	11.43	
	RSウイルス感染症			0.27				0.10	0.30	0.18	14.57	9.96	
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.40	
	流行性角結膜炎								0.67	0.84	3.33	16.09	
基幹	細菌性髄膜炎								0.25	0.03	0.88	0.50	
	無菌性髄膜炎									0.08	1.00	1.03	
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.40			3.00	0.75	0.50	0.33	16.75	7.33	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13	0.13	0.01	3.75	0.42	
	感染性胃腸炎									0.02	8.38	8.30	
計(小児科定点当たり人数)	26.50	12.00	18.01	13.01	19.00	6.80	14.87			663.97			
前週(小児科定点当たり人数)	11.50	8.28	16.46	8.66	14.00	4.60		11.31					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869